

環境省 環境研究総合推進費(4D-1201) シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全—北海道とロシア極東との比較—
代表:中村 太士(北海道大学大学院農学研究院 教授)

シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全 北海道の過去・現在・未来



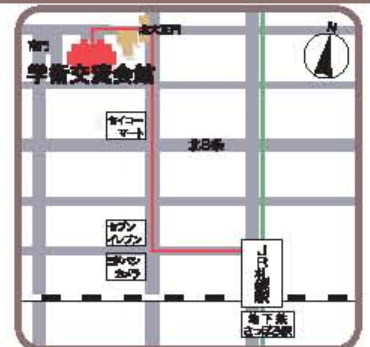
カムイの鳥と生きる

絶滅危惧種であるシマフクロウとタンチョウは、豊かな河川水辺生態系を代表する鳥類です。アイヌの人たちから「コタンコロカムイ(村の守り神)」「サルルンカムイ(湿原の神)」として敬われてきた2種は、乱獲や開発による生息地の改変によって絶滅の危機に瀕してきましたが、保護増殖事業により個体数が回復しつつあります。しかし、2種の本来の生息地である河川水辺生態系は、既に改変・消失しており、回復しつつある個体数を支えることができません。これからの北海道に、カムイの鳥と共に生きるための自然を再生できるのか。北海道大学とタンチョウ保護研究グループの研究成果を紹介しながら、皆様と共に考えるシンポジウムを開催します。

日時 2015年2月11日(祝・水) 13:30~17:45(13:00開場)

会場 北海道大学 学術交流会館 2階 講堂
札幌市北区北8条西5丁目 JR札幌駅・地下鉄さっぽろ駅より徒歩15分

参加費 無料(定員310名)※事前申し込み不要



主催:北海道大学大学院農学研究院、タンチョウ保護研究グループ、北海道大学大学院理学研究院、北海道大学大学院地球環境科学研究院
共催:環境省 協力:酪農学園大学環境共生学類 後援:北海道森林管理局、日本動物学会北海道支部、札幌市

〈お問い合わせ先〉北海道大学大学院農学研究院 小林 慶子 TEL&FAX 011-706-3343